



冬の寒さの中、濃い緑色のトゲトゲした葉の脇に、白い小花が寄り添うように咲いています。^{ヒイラギ}です。モクセイ科に分類される常緑高木で、葉の鋭いとげが特徴的なヒイラギは、古くから邪氣を払う縁起木として、生け垣や庭木に植えられてきました。

「ヒイラギ」という名前は、

葉の縁のとげに触るとヒリヒリと痛むことから、「痛い」という意味を表す古語「ひいらぐ」に由来すると言われています。葉のとげは、背が低い若木のうちに動物に食べられるのを防ぐための手段だと

トゲトゲ葉と白い小花 一ヒイラギー

考えられています。樹齢を重ねるにつれて、とげは次第に少なくなり、縁が丸くなっています。植物が先端だけに残ります。植物が生き残るために巧みな知恵には驚かされます。

白く小さな花には、同じ科のキンモクセイのよう、甘い香りがかすかにあります。顔を近づけて、ようやく感じ取れるほどの奥ゆかしい香りです。

冬の始めにヒイラギの花を見つけたら、ぜひ確かめてみてください。優しい香りが、温かなひとときをもたらしてくれるかもしれません。

陶史の森からのご案内

バードウォッチング（自由参加）

11月23日（日）、12月28日（日）

午前9時～11時

※集合場所は林泉の池堰堤

◆陶史の森は自然環境保護地域です

陶史の森では、動植物や石などを絶対に採らないでください。また、ペットの同伴はご遠慮ください。

第19回 知られざる合戦～高山表の戦い～

美濃陶磁歴史館
(☎55-1245)



昔の高山城址
(昭和初期)

天正12年（1584年）10月の前半ごろ、現在の暦ではちょうど11月ごろ、高山地区を舞台に大きな戦いがあります。市民のほとんどの方が知らないであろうこの戦いは、小牧・長久手の戦いに関連した地方戦の一つ「高山表の戦い」として記録に残っています。攻め手は石川数正を大将とする徳川軍数千、対するは妻木貞徳ら森家臣団でした。この戦いからさかのぼること6カ月、4月9日に起きた長久手の戦いで東濃全域の領主だった森長可が討死しました。その混乱を突いた徳川軍の侵攻を受け、土岐市以東は全て徳川軍の占領下に置かれていました。妻木家が徳川軍の侵

攻を阻むため奮闘を続ける中、羽柴秀吉自らが援軍に駆け付ける計画が進んでいたのですが、その前に徳川軍の急襲を受けたのです。高山城は籠城に適さなかつたため、森家の将兵は、運命をかけた大勝負として野戦で勝負を挑み、辛くも撃退に成功しました。徳川軍はこの敗北により侵攻を諦め、1カ月ほどの交渉を経て羽柴・徳川間で和議が成立します。「高山表の戦い」は、知名度こそ低いものの、とても重要な戦いだったと言えるでしょう。初冬のひととき、城址からどのかな町並みを眺めつつ、かつて武士たちが功名を競つた戦いに思いをはせてみてはいかがでしょうか。



高山城址からの眺め
(昭和初期)